

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 ハードウェア

本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第3章 増設

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

第4章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第5章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	8
リサイクルについて	11
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	14
パソコン本体前面	14
パソコン本体側面	16
パソコン本体背面	17
第2章 ハードウェア	
1 マウスについて	20
マウスの使い方	20
2 キーボードについて	22
3 CD について	24
取り扱い上の注意	24
CD をセットする／取り出す	25
4 フロッピーディスクについて	27
取り扱い上の注意	27
フロッピーディスクをセットする／取り出す	27
5 ハードディスクについて	29
注意事項	29
6 PC カードについて	30
取り扱い上の注意	30
PC カードをセットする	31
PC カードを取り出す	32
7 ハードウェアのお手入れ	37
パソコン本体のお手入れ	37
マウスのお手入れ	37
キーボードのお手入れ	38
CD のお手入れ	38
フロッピーディスクドライブのお手入れ	38

第3章 増設

1 周辺機器を取り付ける前に	42
取り扱い上の注意	42
2 メモリを取り付ける	44
メモリの取り付け場所	45
取り付けられるメモリ	45
メモリを取り付ける	46

第4章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	52
2 BIOS セットアップの操作のしかた	53
BIOS セットアップを起動する	53
設定を変更する	54
BIOS セットアップを終了する	55
3 メニュー詳細	56
メインメニュー	56
詳細メニュー	59
セキュリティメニュー	66
終了メニュー	68
4 BIOS のパスワード機能を使う	69
パスワードの種類	69
パスワードを忘れると	69
パスワードを設定する	70
パスワードを変更／削除する	72
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	74
メッセージが表示されたときは	74
メッセージ一覧	74

第5章 技術情報

1 仕様一覧	80
本体仕様	80
LAN アダプタ仕様	81
サウンド仕様	81
グラフィック仕様	81
2 コネクタ仕様	82

索引	85
----	----

Memo

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
- ・本パソコンの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

- ・定期保守サービス
トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。
- ・定額訪問修理サービス
万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。
- ・定額点検サービス
トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

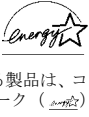
- ・スポット訪問修理サービス
お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。修理料金はその都度ご清算いただけます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。
- ・スポット持込修理サービス
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただけます。経済的な費用で修理できます。
- ・スポット引取修理サービス
お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。
- ・スポット点検サービス
お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。
※アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元へお問い合わせください。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。この装置は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク  (Energy Star) は、参加各国の間で統一されています。

ただし、OS (Windows NT 等) の制限上、本製品の省エネルギー機能が使用できない場合もあります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

本製品には、有寿命部品 (CRT、液晶ディスプレイ、ハードディスクなど) が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

データのバックアップについて

本装置に記録されたデータ (基本ソフト、アプリケーションソフトも含む) の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

このパソコンは、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

このパソコンには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、このパソコンを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の子備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
 - (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
 - (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
 - (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関して、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。

お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。

したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的に推奨いたします。

ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。



また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

この製品の構成部品（マザーボード、CD-ROM、ハードディスク、フロッピーディスクドライブなど）には、微量の重金属（鉛、クロム）や化学物質（アンチモン）が含有されています。




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「詳細」の「シリアルポート」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「詳細」-「シリアルポート」：使用しない

■ フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 11 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『修理サービス網一覧表』）。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows ※
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition		
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT		
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me		
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows 98		
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS		
VirusScan Ver.4.5.1	VirusScan		
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader		

※：Windows XP/2000/NT/Me/98 のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

機種名	本文中の表記	
FMV-6000CX	[CX]	本パソコン／パソコン本体 その他のパソコン
FMV-7000TX	[TX]	
FMV-6000SL	[SL]	
FMV-7000FL	[FL]	
FMV-6000CL	[CL]	
FMV-6000CLs	[CLs]	

■ 警告ラベル／注意ラベル

本パソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

リサイクルについて

■ パソコン本体の廃棄について

パソコン本体（液晶ディスプレイを除いた付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

- 個人のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 液晶ディスプレイの廃棄について

液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

- 個人のお客様へ

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 使用済乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスなどには乾電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

使用済乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託してください。

- 個人のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 富士通りサイクルシステムについて

当社では平成10年より、法人・企業のお客様から廃棄されるパソコン、液晶ディスプレイを「富士通りサイクルシステム」（有料）にて回収・リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。

お問い合わせ／お申し込み先：（株）富士通ロジスティクス（電話番号：045-470-5305）

なお、法人・企業以外のお客様はお申し込みできません。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の登録商標です。

VirusScan は米国法人 Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2001

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

各部名称

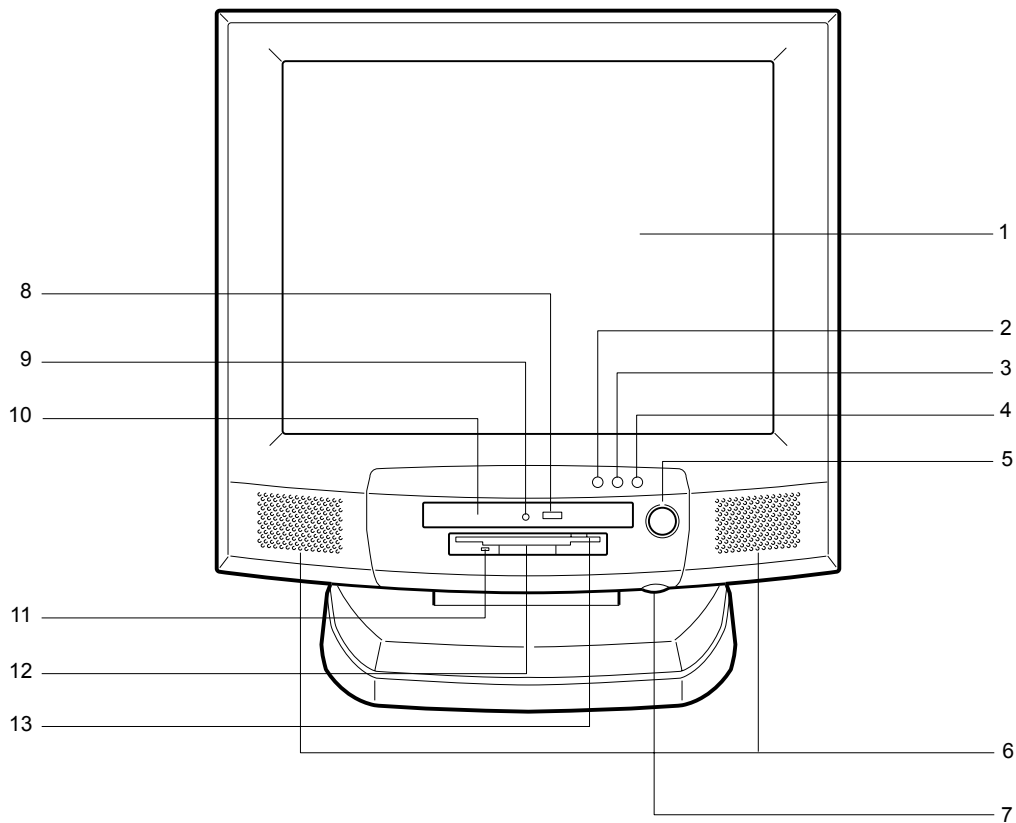
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	14
------------------	----

1 各部の名称と働き

パソコン本体の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面



1 液晶ディスプレイ

画面が表示されます。

2 ディスクアクセスランプ

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクやCD-ROMドライブからデータを読み出したりしているときに点灯します。

3 スタンバイランプ

本パソコンがスタンバイ状態（省電力状態）になったときにオレンジ色に点灯します。

4 電源ランプ

パソコン本体が動作しているときは緑色に点灯します。
スタンバイ状態（省電力状態）のときは点灯しません。

5 電源ボタン

パソコン本体の電源を入れるときや、スタンバイ状態にするときに押します。

6 スピーカー

本パソコンの音声を出力します。

POINT

- ▶ スピーカー音量のボリュームはありません。
Windows を起動後、「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」(Windows 98 の例) によって調整してください。

7 ブライトネスボリューム

液晶ディスプレイの明るさを調節します。右にまわすと明るくなり、左にまわすと暗くなります。

8 CD 取り出しボタン

CD-ROM や音楽 CD を取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときにお使いになれます。CD アクセスランプが点灯しているときは、押さないでください。

9 CD アクセスランプ

CD-ROM からデータを読み込んでいるときや音楽 CD を再生しているときに点灯します。

10 CD-ROM ドライブ

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽 CD を再生したりします。

11 フロッピーディスクアクセスランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。

12 フロッピーディスクドライブ

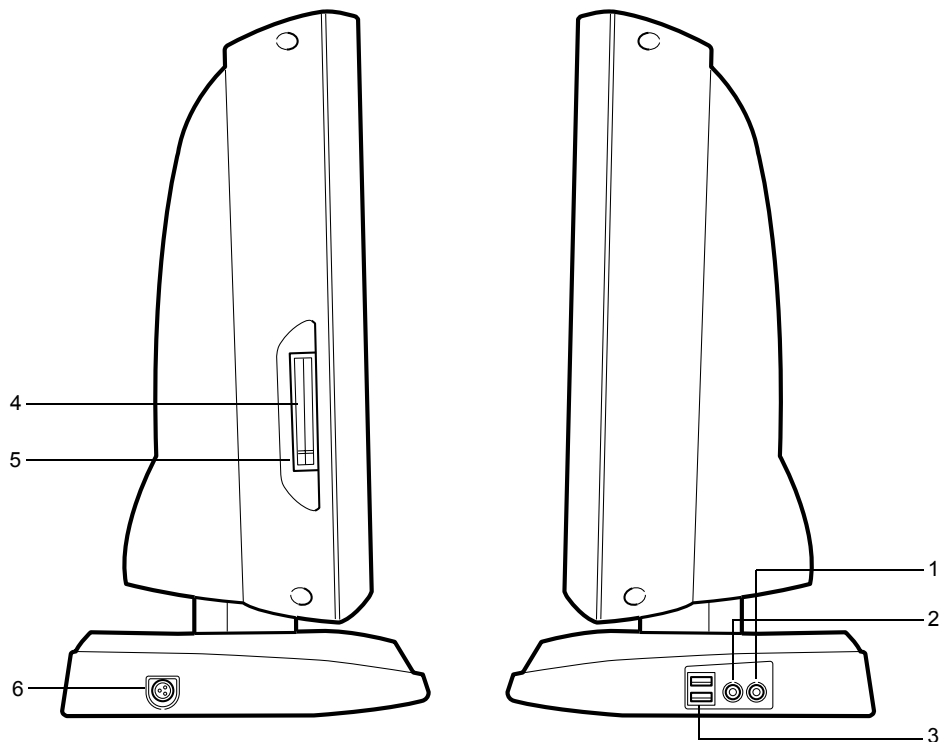
フロッピーディスクをセットしてデータを書き込んだり、読み出したりします。

13 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクアクセスランプが点灯しているときは、押さないでください。

パソコン本体側面



1 マイク端子

市販のコンデンサマイクを接続します。

2 ヘッドホン端子

市販のヘッドホンを接続します。

3 USB コネクタ

USB 規格の周辺機器を接続します。

4 PC カードスロット

PC カードをセットして、使うためのスロットです。ご購入時には、ダミーカードが2枚装着されています。

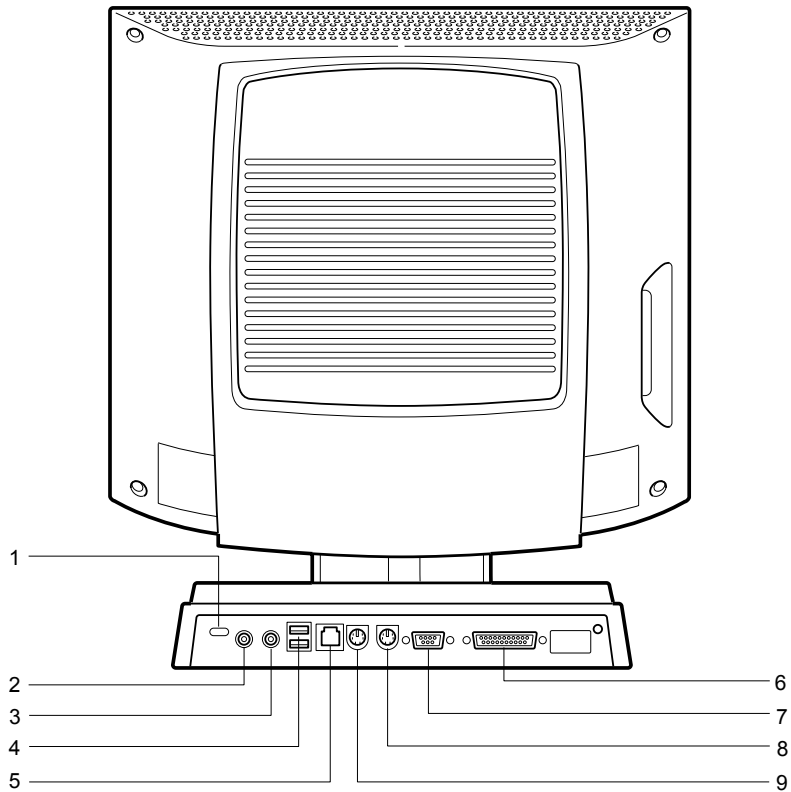
5 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

6 DC-IN コネクタ

AC アダプタを接続します。

パソコン本体背面



1 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続できます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）商品番号：0522010
 （富士通コワーコ取り扱い品：☎03-3342-5375）

2 ラインアウト端子

サウンド出力用端子。オーディオ機器の入力端子を接続します。
 スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

3 ラインイン端子

サウンド入力用端子。オーディオ機器の出力端子を接続します。

4 USB コネクタ

USB 規格の機器を接続します。

5 LAN コネクタ

LAN ケーブルを接続します。

6 パラレルコネクタ

プリンタやスキャナなどのケーブルを接続します。

7 シリアルコネクタ

RS-232C 規格に対応した機器のケーブルを接続します。

8 キーボードコネクタ

キーボードを接続します。

9 マウスコネクタ

マウスを接続します。

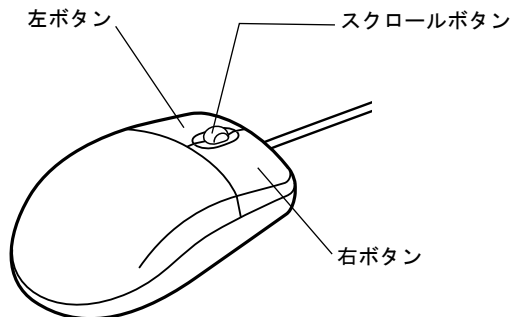
第2章

ハードウェア

本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1	マウスについて	20
2	キーボードについて	22
3	CDについて	24
4	フロッピーディスクについて	27
5	ハードディスクについて	29
6	PCカードについて	30
7	ハードウェアのお手入れ	37

1 マウスについて



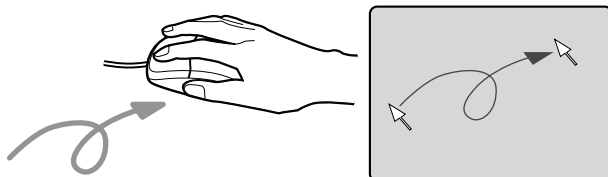
POINT

▶ マウスは、定期的なクリーニングを行ってください (→ P.37)。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック

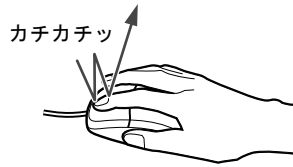
マウスの左ボタンを1回カチッと押します。

また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。



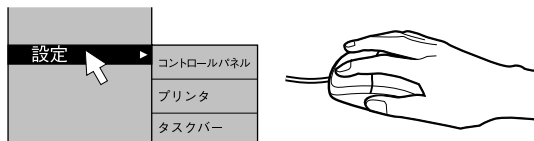
- **ダブルクリック**

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



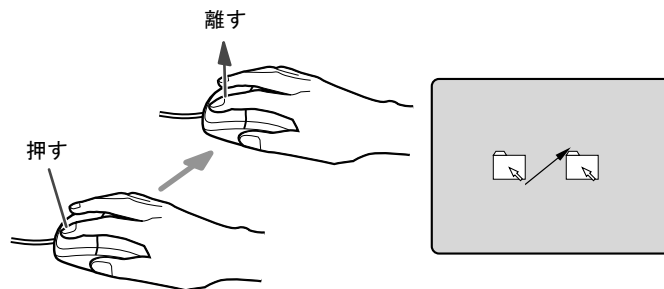
- **ポイント**

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、そのメニューが表示されます。



- **ドラッグ**

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



- **スクロール** (スクロールボタン付きのマウスのみ)

- ・スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・スクロール機能は、対応したアプリケーションで使うことができます。

POINT

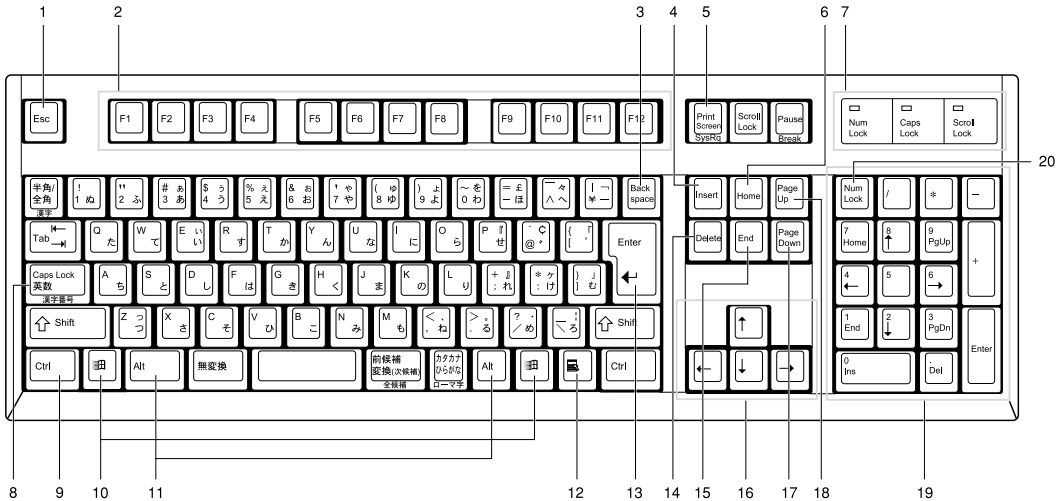
- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで右利き用(主な機能に左側のボタンを使用)に設定した場合の操作です。

2 キーボードについて

キーボード（109日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- ▶ お使いになる OS やアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。OS やアプリケーションのマニュアルをご覧ください。



1 Esc キー

アプリケーションの実行中の動作を取り消します。

2 F キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 Back space キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

4 Insert キー

文字の挿入 / 上書きの切り替えをするときに押します。

5 Print Screen キー

画面表示をクリップボードに取り込みます。

6 Home キー

カーソルを行の最初や文書の最初に、一度に移動するときに押します。

7 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

8 Caps Lock 英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字 / 小文字を切り替えます。

9 Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

10 Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

11 Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

12 Application キー

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

13 Enter キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

14 Delete キー

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーを一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

15 End キー

カーソルを行の最後や文書の最後に、一度に移動するときに押します。

16 カーソルキー

カーソルを移動します。

17 Page Down キー

次の画面に切り替えるときに押します。

18 Page Up キー

前の画面に切り替えるときに押します。

19 テンキー

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

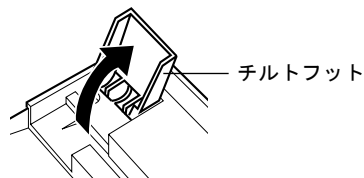
「Num Lock」インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

20 Num Lock キー

テンキーの機能を切り替えるときに押します。

POINT

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



3 CD について

CD の取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CD をお使いになるときは、次の点に注意してください。

■ CD 媒体の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

■ ドライブの注意事項

- 「CD 媒体の注意事項」が守られていない CD、ゆがんだ CD、割れた CD、ヒビの入った CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。上記の CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 本パソコンは、円形の CD のみお使いになれます。円形以外の異形 CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形 CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。

POINT

- ▶ CD-ROM は、音楽用 CD (コンパクトディスク) に、音の代わりにパソコンの情報 (文字など) を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本パソコンでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません (カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択した場合を除く)。
- ▶ 本パソコンでは、次図のマークがついた CD のみお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。



※1 : CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

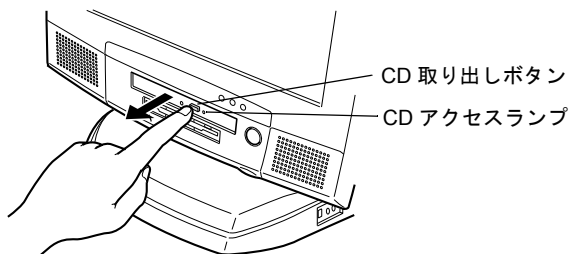
※2 : 8 倍速以上でデータを書き込む場合は、High Speed 対応のドライブが必要です。

CD をセットする／取り出す

■ CD をセットする

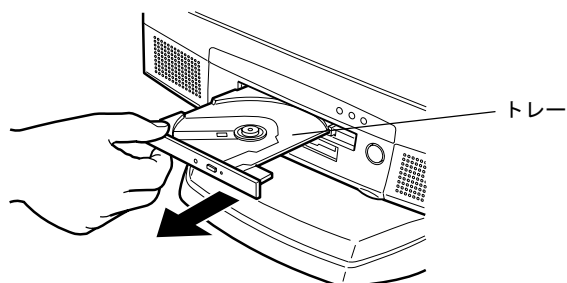
1 CD 取り出しボタンを押します。

CD 取り出しボタンの中央を押すと、CD をセットするトレーが少し出ます。



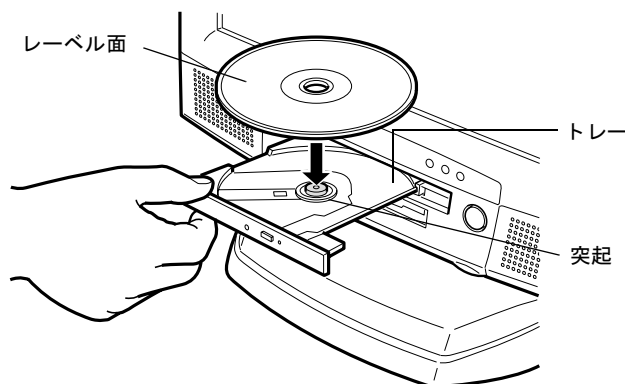
2 トレーを手で引き出します。

図のようにトレーを持って引き出してください。



3 CD のレーベル面を上にして、トレーの中央の突起に「パチン」という音がするまではめ込みます。

このとき、トレーを手で押さえてください。



POINT

- ▶ CD は、必ずトレーの中央の突起に「パチン」と音がするまで、はめ込んでください。きちんとはめ込まないと、故障などの原因となることがあります。

4 トレーを手で「カチッ」という音がするまで押します。

トレーが本体に入り、CD がセットされます。

POINT

- ▶ CD をセットすると、CD アクセスランプが点灯します。CD アクセスランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ トレーを入れるときに CD 取り出しボタンを押すとトレーが正しくセットされません。

■ CD を取り出す

CD の取り出しは、CD アクセスランプが消えているのを確認してから、CD 取り出しボタンを押して行ってください。

4 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

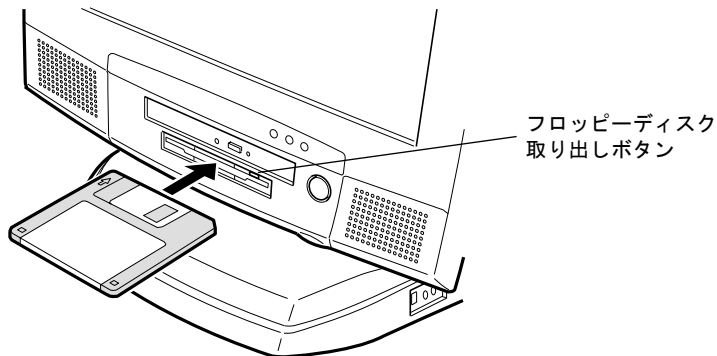
POINT

- ▶ DOS/Vフォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ フロッピーディスクをセットする

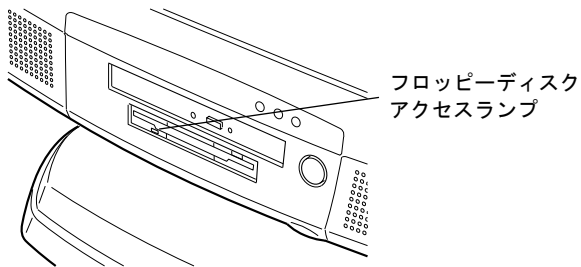
ラベル面を上に向けて、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクを取り出す

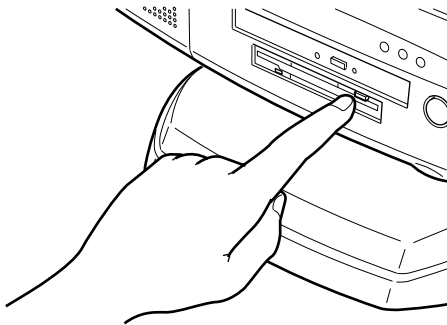
- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。



POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。



5 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態でも本パソコンを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所でのご使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所でのご使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでのご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

6 PCカードについて

PCカードの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となるので、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- カードをこすったりして静電気をおこさないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- ▶ 本パソコンでは、内蔵の LAN 機能と LAN カードを同時にお使いになれません。LAN カードをお使いになる場合は、内蔵の LAN 機能を無効にしてください。LAN 機能を無効にする方法については、「LAN コントローラ」(→ P.61) をご覧ください。
 - ▶ モデムカードなど、通信系の PC カードの中には、2 枚同時にお使いになれないものがあります。PC カードに添付のマニュアルで確認してください。
 - ▶ 本パソコンでは、12V を使う PC カードはお使いになれません。
 - ▶ 本パソコンでは、ZV ポート対応の PC カードはお使いになれません。
 - ▶ PC カードの中には使える IRQ が限定されているものや、IRQ を他のデバイスと共有できないものがあります。
 - ・ Card Bus 対応 PC カードの場合
IRQ の予約は必要ありません。
 - ・ 16 ビット対応 PC カードの場合
お使いになる 16 ビットカードの枚数に応じて IRQ を BIOS セットアップメニューの PnP/PCI 設定の項目で予約してからお使いください。2 枚の 16 ビットカードを同時に使用する場合は、IRQ を 2 つ予約してください。
ただし、お使いになる PC カードのマニュアルに使える IRQ について記載されている場合は、必ず記載されている IRQ を予約してください。
- お使いになる PC カードのマニュアルにて、Card Bus 対応 PC カードか 16 ビット対応 PC カードかをご確認ください。
- ▶ Windows NT では Card Bus 対応 PC カードは使えません。

PCカードをセットする

PCカードは、名刺サイズのカードに、モデムなどの周辺機器の機能を持たせたカードです。お買い上げの状態では、ダミーカードが2枚装着されています。

⚠ 注意



- PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

🔍 POINT

- ▶ Type IIIのPCカードをセットするときは、ダミーカードを2枚とも抜き取り、ディスプレイ側のスロットにセットしてください。
- ▶ PCカードによっては、お使いになるOSに関わらず、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PCカードに添付のマニュアルで確認してください。
- ▶ PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶついたりしないでください。破損の原因となります。

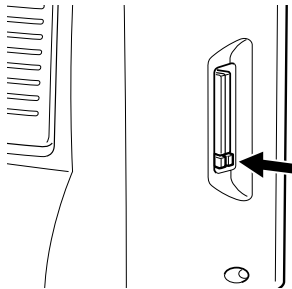
- 1 Windows NT の場合は、パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

Windows XP/2000/Me/98 の場合は、手順2に進んでください。

- 2 PCカード取り出しボタンを押します（ダミーカードが入っている場合）。

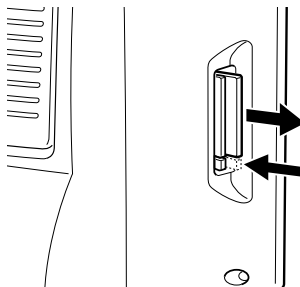
ダミーカードが入っていない場合、手順4に進んでください。

PCカード取り出しボタンを軽く1回押すと、ボタンが少し飛び出します。



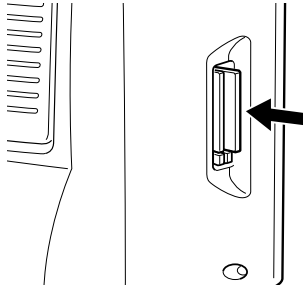
- 3 ダミーカードを取り出します。

飛び出したPCカード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。



4 PCカードをセットします。

PCカードの製品名を本体背面側に向けてPCカードスロットに差し込みます。



PCカードを取り出す

POINT

- ▶ コード付きのPCカードを取り出す場合、PCカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PCカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。

■ Windows XP の場合

⚠ 注意



高温

- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



けが

- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- ▶ タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ダイアログボックスで、「停止」をクリックしてPCカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

- 2 「XXXXXX を安全に取り外します」をクリックします。

XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

- 3 「ハードウェアの取外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

- 4 PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く 1 回押すと、ボタンが少し飛び出します。

- 5 PC カードを取り出します。

飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。

■ Windows 2000 の場合

⚠ 注意



- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順4の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1** タスクバーの「PCカード」アイコンを右クリックし、「ハードウェアを取り外すかまたは取り出す」をクリックします。

「ハードウェアの取り外し」ダイアログボックスが表示されます。

- 2** 「停止」をクリックします。

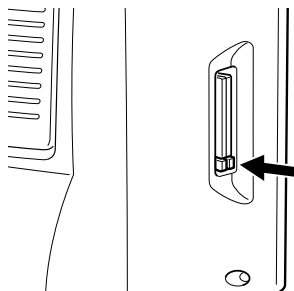
「ハードウェアデバイスの停止」ダイアログボックスが表示されます。

- 3** 「OK」をクリックします。

- 4** 「OK」をクリックします。

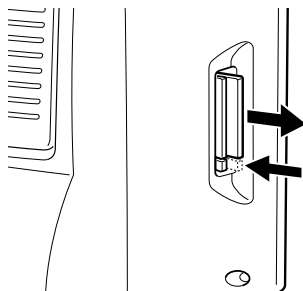
- 5** PCカード取り出しボタンを押します。

PCカード取り出しボタンを軽く1回押すと、ボタンが少し飛び出します。



- 6** PCカードを取り出します。

飛び出したPCカード取り出しボタンを押し、PCカードを取り出します。



- 7** ダミーカードをセットします。

ダミーカードをPCカードスロットに差し込みます。

■ Windows NT の場合

⚠ 注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 1 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

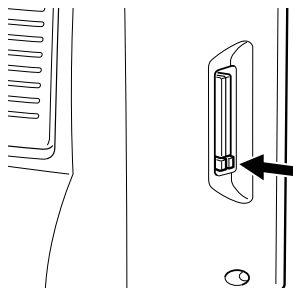


- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

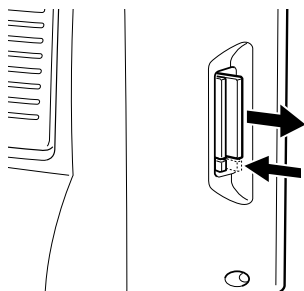
2 PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く 1 回押すと、ボタンが少し飛び出します。



3 PC カードを取り出します。

飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



4 ダミーカードをセットします。

ダミーカードを PC カードスロットに差し込みます。

■ Windows Me/98 の場合

⚠ 注意

高温



- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

けが



- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 タスクバーの「PCカード」アイコンをクリックします。

🔍 POINT

- ▶ タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリック、または「コントロールパネル」ウィンドウの「PCカード」アイコンをクリックして表示される「PCカード (PCMCIA) のプロパティ」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

- 2 「XXXXXXXX の中止」をクリックします。

XXXXXXXX には、使用中の PC カードの名称が表示されます。

PC カードの動作が停止し、次の画面が表示されます。



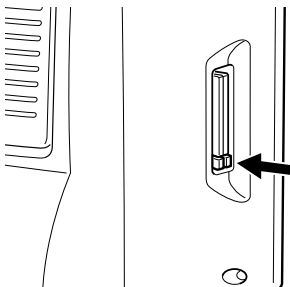
🔍 POINT

- ▶ PC カードによっては、「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、OS を終了させ、パソコン本体の電源を切ってから取り出しを行ってください。

- 3 「OK」をクリックします。

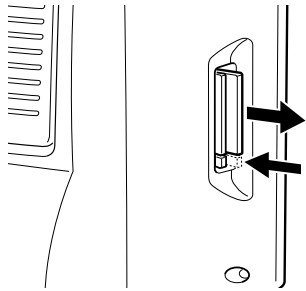
- 4 PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く 1 回押すと、ボタンが少し飛び出します。



5 PCカードを取り出します。

飛び出したPCカード取り出しボタンを押し、PCカードを取り出します。



6 ダミーカードをセットします。

ダミーカードをPCカードスロットに差し込みます。

7 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠ 警告

感電



- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。

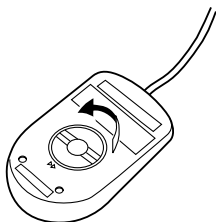
- 柔らかい布で、から拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、パソコン本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。パソコン本体を損傷する原因となります。
- 通風孔にほこりがたまらないよう、掃除機などでほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布で、から拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

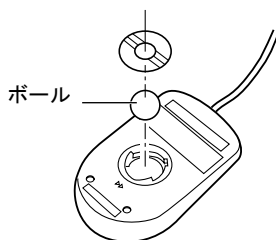
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



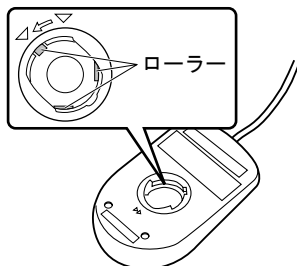
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

キーボードのお手入れ

柔らかい布で、から拭きします。

CDのお手入れ

- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- 市販のCD-ROM クリーニングディスクを使ってCD-ROM ドライブをクリーニングすると、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

● サプライ品

クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

（富士通コワーコ取り扱い品：☎03-3342-5375）

クリーニング方法は、OSによって異なります。

■ Windows XP/2000/NT/Me モデルの場合

- 1 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 2 コマンドプロンプト (Windows XP/2000/NT) または MS-DOS プロンプト (Windows Me) から、dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例) 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
dir a:
- 3 フロッピーディスクアクセスランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

■ Windows 98 モデルの場合

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。
c:¥fjuty¥c\ndsk 0
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
- 4 フロッピーディスクアクセスランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

Memo

第3章 増設

3

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

- 1 周辺機器を取り付ける前に 42
- 2 メモリを取り付ける 44

1 周辺機器を取り付ける前に

本パソコンは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して機能を拡張できます。

⚠ 警告



- 周辺機器を接続する場合には、当社推奨品以外の機器は接続しないでください。感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- 周辺機器類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。



- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、機種によってお使いになれないものがあります
ご購入の前に『システム構成図』をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかつたり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本パソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- Windows のセットアップは終了していますか？
セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。
『取扱説明書』をご覧になり、Windows のセットアップを行ってください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われずおそれがあります。
- パソコンおよび接続されている機器の電源を切る
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。
- 電源を切った直後は作業をしない
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後10分ほど待ってから作業を始めてください。

- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意**
傷つけたり、加工したりしないでください。
- **静電気に注意**
内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない**
金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。
- **周辺機器の電源について**
周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください（Windows XP/2000/Me/98）**
本パソコンは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）によって制御していますので、周辺機器もACPIに対応している必要があります。
ACPIに対応していない周辺機器をお使いの場合は、増設した機器やパソコンが正常動作しなくなることがあります。周辺機器がACPIに対応しているかどうかは、周辺機器の製造元にお問い合わせください。
- **ドライバーを用意する**
周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要です。
ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 メモリを取り付ける

本パソコンのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください（→『取扱説明書』）。

警告



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となります。

注意



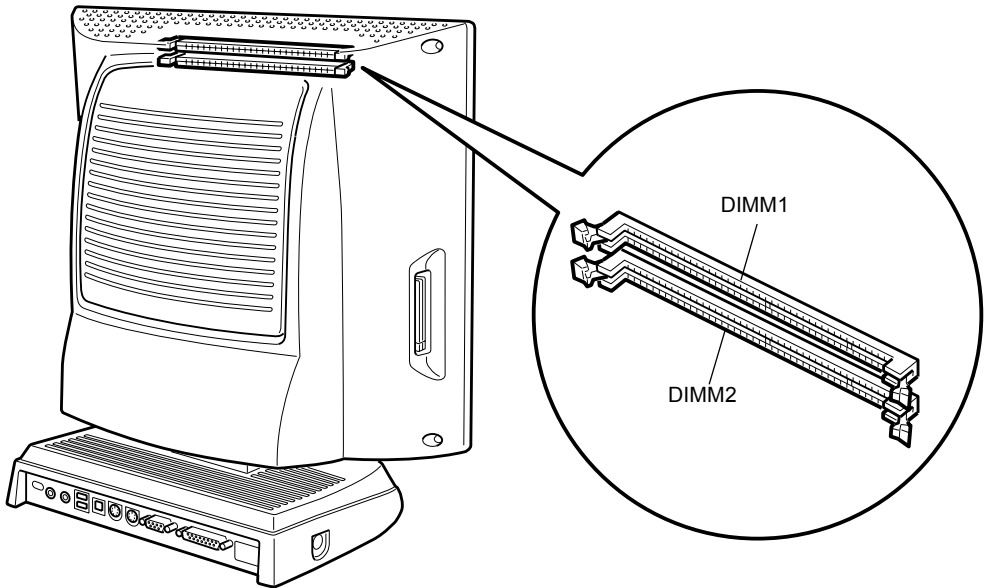
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

メモリの取り付け場所

メモリはパソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。



取り付けられるメモリ

本パソコンにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「SDRAM DIMM、ECC なし、PC133MHz 対応品」をお使いください。

■メモリの組み合わせ

最大で 512MB (256MB × 2) のメモリを取り付けることができます。

標準構成では、DIMM1 にメモリが搭載されています。増設するメモリは、DIMM2 に取り付けてください。

なお、メモリの総容量を 512MB にする場合には、DIMM1 のメモリを 256MB のメモリに入れ替えてください。

POINT

- ▶ 対象機種を確認のうえ、弊社純正品の「168 ピン SDRAM DIMM、ECC なし、133MHz 対応品」をお使いください。純正品以外のメモリを取り付けると、本パソコンでは動作しない可能性があります。

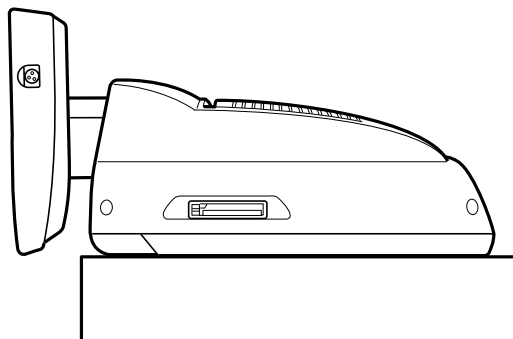
メモリを取り付ける

1 電源プラグをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体を水平にします。

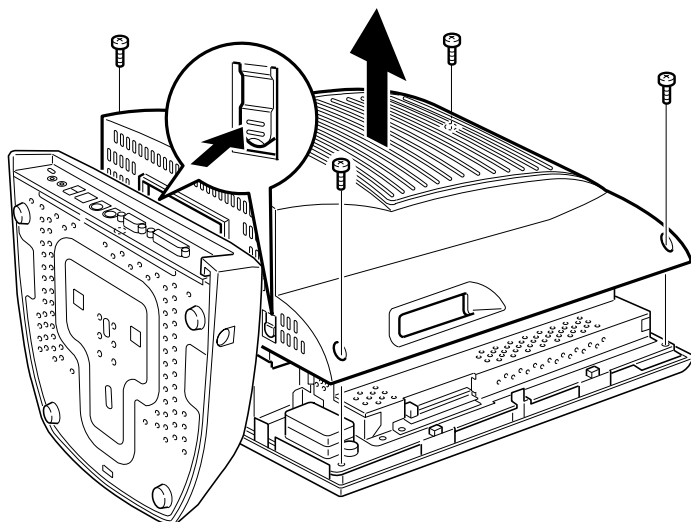
図のように、背面が上になるようにします。このとき、台座部分を作業台からはみ出させ、ディスプレイ部と作業台が平行になるようにしてください。

作業はやわらかい布を敷いた平坦な台の上で行ってください。とくに、液晶ディスプレイに突起物などがあたらないようにしてください。



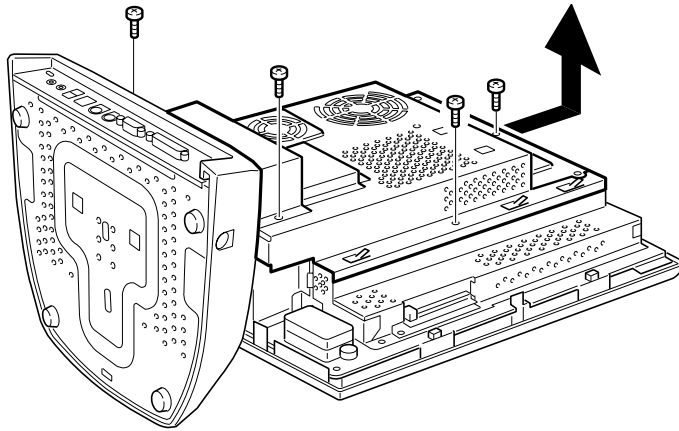
3 背面カバーを取り外します。

ネジを外し、背面カバーのツメを押しながら取り外します。

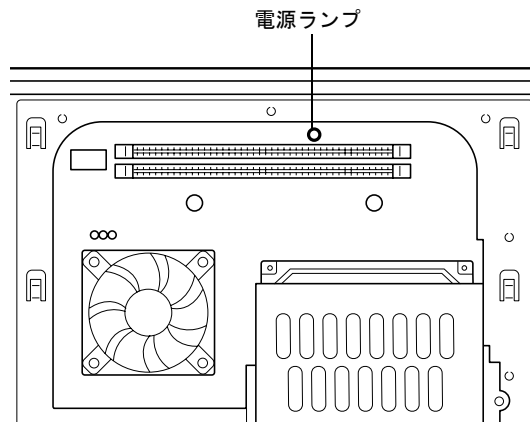
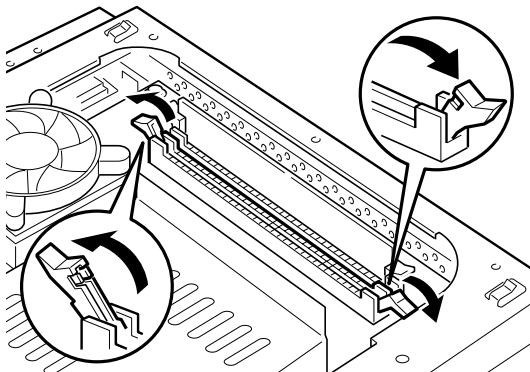


4 内部カバーを取り外します。

ネジを外し、内部カバーをスライドさせて取り外します。

**重要**

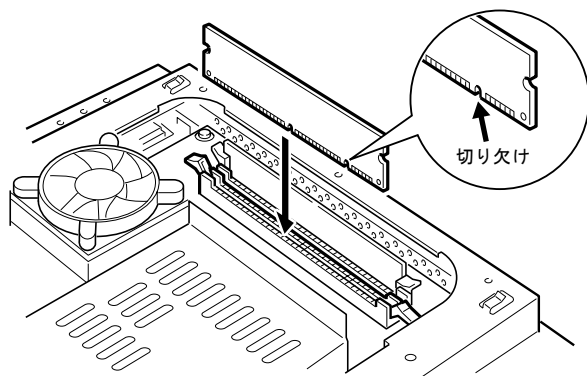
- ▶ 次図の電源ランプが消えていることを確認してください。電源ランプが点灯している場合、電源を切り、電源ケーブルを抜いてから作業を再開してください。

**5** スロットの両側のフックを外側に開きます。

6 メモリをスロットに差し込みます。

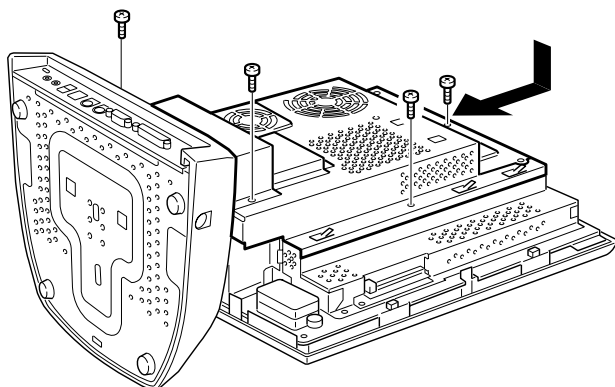
メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、メモリがしっかりと固定されているか確認してください。

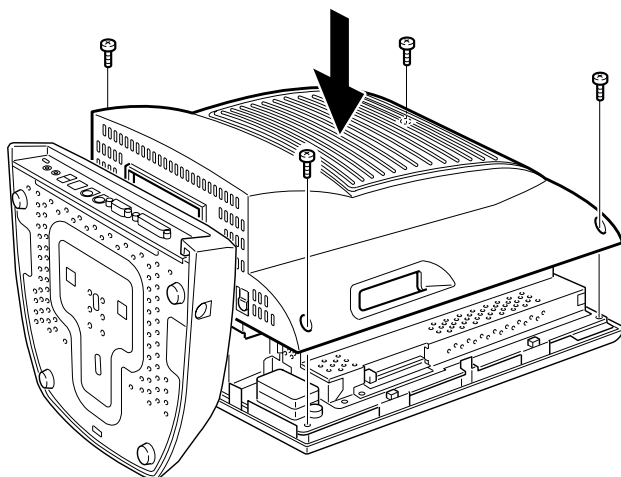


7 内部カバーを取り付けます。

内部カバーをスライドさせて引っかけに合わせて取り付け、ネジで固定します。



8 背面カバーを取り付けます。



9 パソコン本体を立てます。

パソコン本体を立てたら、ディスプレイ部を使いやすい角度に、調節してください。

 **POINT**

- ▶ メモリの取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。

Memo

第 4 章

BIOS

4

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは	52
2 BIOS セットアップの操作のしかた	53
3 メニュー詳細	56
4 BIOS のパスワード機能を使う	69
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	74

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本パソコンでは、必要最小限の設定はご購入時にすでに行われています。

次の場合などで設定を行う必要があります。

- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- シリアルポートなどの働きを設定するとき
- 自己診断中にメッセージが表示されたとき
- 他の OS を使うとき

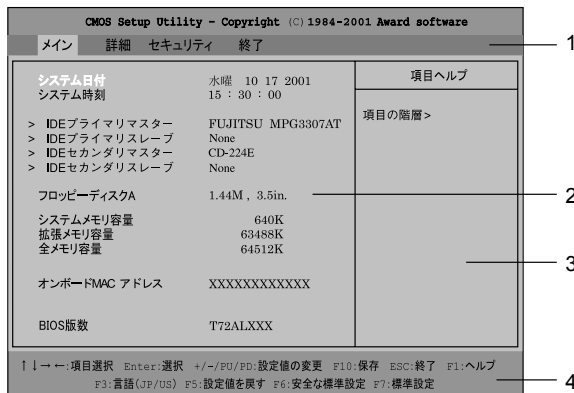
POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、「富士通 パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 本パソコンを再起動します。
 - ・ Windows XP モデルの場合は、「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックします。
 - ・ Windows 2000 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
 - ・ Windows NT モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「コンピュータを再起動する」をクリックして、「はい」をクリックします。
 - ・ Windows Me モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
 - ・ Windows 98 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
- 3 画面下に「Press TAB to show POST screen,<F2>SETUP,<F12>Boot Menu」と表示されたら、【F2】キーを「Entering setup」と表示されるまで押します。BIOS セットアップ画面が表示されます。



機種や装置により、表示が異なる場合があります。

1. メニューバー
メニューの名称が表示されます。
2. 設定フィールド
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
3. ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。
4. キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1** 【←】【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 - ▶の付いている項目はサブメニューがあることを表示します。
 - ▶の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3** 【+】【-】キー（テンキー）または【Page Up】【Page Down】キーを押して、設定を変更します。
 - さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。
 - なお、サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときには、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.55)をご覧ください。

■ 各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。一般ヘルプ画面は、BIOS セットアップの操作で使用するキーについて説明しています（英語のみ）。ヘルプを閉じるには、【Esc】キーを押します。
【F3】キー	言語（Language）を日本語、または英語に切り替えます。
【F5】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、前回保存した値に戻します。
【F7】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、購入時の状態（標準設定値）に戻します。
【F10】キー	変更した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップの終了メッセージを表示します。
【Enter】キー	▶が付いている項目のサブメニューの表示、設定値の一覧の表示、設定値の選択を行います。
【↑】【↓】【→】 【←】キー	メニュー画面の切り替えや、項目間のカーソル移動に使います。
【PageUp】 【PageDown】 【+】【-】キー	設定値を変更します。

BIOS セットアップを終了する

- 1** 【←】【→】キーを押して、「終了」メニューにカーソルを合わせます。
なお、サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押してメニューバーに「終了」メニューが表示されてから、同じ操作を行います。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、終了方法を選び、【Enter】キーを押します。
終了方法については、「終了メニュー」(→ P.68) をご覧ください。
- 3** メッセージの後に「Y」が表示されていることを確認してから、【Enter】キーを押します。もし、「N」が表示されているときは、【Y】キーを押してから【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

3 メニュー詳細

BIOS セットアップの個々のメニューを説明します。

重要

- ▶ 各設定の標準設定値をアンダーラインで表記しています。
- ▶ お使いになるモデルによっては、ご購入時の設定が標準設定値と異なる場合があります。この場合、ご購入時の設定を「(初期値 : Windows × ×モデル)」で表記しています。
- ▶ 本パソコンにインストールされている Windows XP/2000/Me/98 は、ACPI モード (S3) に設定されています。

メインメニュー

メインメニューでは、デバイスや日時の設定などを行います。

■ 設定項目の詳細

□ システム日付

年月日を設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

□ システム時刻

時刻を設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

POINT

- ▶ システム時刻、システム日付は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。
- ▶ 入力した数値を修正するときは、【Back space】キーを押して設定値を消し、その後入力してください。

□ IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブメニュー

サブメニューを使って、プライマリ IDE やセカンダリ IDE に取り付けられたハードディスクの、タイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- ハードディスクの自動検出…【Enter】キーを押すとハードディスクの自動検出を行います。ハードディスク以外は検出されません。
- IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ…IDE デバイスのタイプを設定します。
 - ・なし（初期値：スレーブの場合）：IDE デバイスを使いません。
 - ・自動（初期値：マスターの場合）：IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。
 - ・手動：IDE デバイスのタイプを手動で設定します。

- **アクセスモード**…ハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクのアクセスモードを設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」、「手動」に設定した場合に設定できます。
 - ・ **CHS** : シリンダ番号/ヘッド番号/セクタ番号によるアクセスが行われます。
 - ・ **LBA** : LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) が行われます。
 - ・ **Large** : 拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換によるアクセスが行われます。
 - ・ **自動** : 最適なモードが設定されます。

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。
- ▶ ハードディスクをフォーマットした後に本設定を変更すると、正常にアクセスできない場合があります。フォーマットした後は、変更しないでください。

- **最大容量**…ハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクドライブの最大容量を表示します。

POINT

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、1MB=1024²byte 換算によるものです。

- **シリンダ数**…ハードディスクのシリンダ数を設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。
- **ヘッド数**…ハードディスクのヘッド数を設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。
- **仮書き込みシリンダ**…ハードディスクへデータを書き込んでいるときにデータの保護を行うために BIOS がシリンダのどこへ仮書き込みを行うかを設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定した場合、設定できません。

POINT

- ▶ 「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「手動」に、「アクセスモード」を「CHS」に設定した場合、65535 か 0 に設定してください。
- **ヘッドの退避シリンダ**…システムの電源が切断されたときに、ハードディスクのヘッドをどこのシリンダに退避させるかを設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定した場合、設定できません。

POINT

- ▶ 「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「手動」に、「アクセスモード」を「CHS」に設定した場合、「物理シリンダ数の最大値'-1」の値に設定してください。
- **セクタ数**…ハードディスクのセクタ数を設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

□ フロッピーディスク

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

- ・ **無効** : フロッピーディスクドライブをしません。
- ・ 360K,5.25in.、1.2M,5.25in.、720K,3.5in.、1.44M, 3.5in.、2.88M,3.5in.

システムメモリ容量

システムメモリの容量が表示されます。設定はできません。

拡張メモリ容量

拡張メモリの容量が表示されます。設定はできません。

全メモリ容量

本装置に搭載されている全メモリ容量から、VRAM で使われているメモリ容量を除いたものが表示されます。設定はできません。

オンボード Mac アドレス

オンボード LAN の Mac アドレスが表示されます。設定はできません。

BIOS 版数

本パソコンの BIOS 版数が表示されます。設定はできません。

詳細メニュー

詳細メニューでは、次のサブメニューでフロッピーディスクドライブ、IDE デバイスなどの設定を行います。

BIOS 設定

内蔵デバイス設定

省電力設定

PnP/PCI 設定

■ 設定項目の詳細

□ BIOS 設定

ウイルスを検出したときの警告、起動デバイスの優先順位などを設定します。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **ウイルス検出時の警告**…ハードディスクのブートセクタへの書き込み要求が発生した場合に、警告メッセージを表示するかどうかを設定します。
 - ・有効：警告メッセージを表示します。
 - ・無効：警告メッセージを表示しません。

POINT

- ▶ ウイルス検出用アプリケーションや OS をインストールする場合は、「無効」に設定してください。

- **高速起動**…起動してから OS を読み込むまでの時間を、短くするかどうかを設定します。自己診断テストを簡略化します。
 - ・無効：OS を読み込むまでの時間を短くしません。
 - ・有効：OS を読み込むまでの時間を短くします。
- **プロセッサシリアルナンバ**
Intel Pentium III Processor が持つプロセッサシリアルナンバ機能を有効または無効にするかを設定します。
 - ・有効：プロセッサシリアルナンバ機能を有効にします。
 - ・無効：プロセッサシリアルナンバ機能を無効にします。

POINT

- ▶ Intel プロセッサシリアルナンバコントロールユーティリティをお使いになる場合、「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定した場合、Intel プロセッサシリアルナンバコントロールユーティリティなどのユーティリティで Enabled に設定できなくなります。
- ▶ Windows XP/2000/NT/Me/98 以外の OS をお使いになる場合、Intel プロセッサシリアルナンバコントロールユーティリティがお使いになれません。この場合、本項目でプロセッサシリアルナンバ機能の設定を行ってください。

- **起動時の自己診断画面**…本パソコンの起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。
 - ・有効：起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示します。
 - ・無効：起動時または再起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。

- **起動デバイスの優先順位 1～4**…起動デバイスの優先順位を設定します。「LAN」を設定した場合、ネットワーク経由で本パソコンを起動できます。
 - ・ 1:Floppy、2:HDD、3:CD-ROM、4:LAN（初期値：Windows XP モデル）
 - ・ 1:Floppy、2:HDD、3:CD-ROM、4:無効（初期値：Windows 2000/NT/Me/98 モデル）

POINT

- ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、「LAN」を起動デバイスの優先順位 1 に設定してください。また、『Wired for Management Baseline Version 2.0』に準拠したインストラクションサーバーシステムが必要となります。

- **ネットワーク起動**…ネットワーク (LAN) 経由で本パソコンを起動する方法を選択します。
 - ・ **無効**（初期値：Windows 2000/NT/Me/98 モデル）：どの方法も選択しません。ネットワーク経由で起動をしません。
 - ・ **PXE**（初期値：Windows XP モデル）：PXE (Preboot Execution Environment) を選択します。
- **起動時の NumLock 設定**…起動時に、キーボードを NumLock 状態にするかどうかを設定します。
 - ・ **Off**：キーボードを NumLock 状態にしません。
 - ・ **On**：キーボードを NumLock 状態にします。
- **ハードディスクの S.M.A.R.T.**…ハードディスクが故障しそうな場合に、警告を表示するかどうかを設定します。
 - ・ **無効**：警告を表示しません。
 - ・ **有効**：警告を表示します。

POINT

- ▶ 警告表示を行うためには、専用のアプリケーションが必要になります。

□ 内蔵デバイス設定

ハードディスクの転送モードや Ultra DMA モード、シリアルポート、パラレルポートなどの設定を行います。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **IDE プライマリコントローラ／IDE セカンダリコントローラ**…IDE インターフェースを有効にするかどうかを設定します。通常は、「有効」に設定してください。
 - ・ **無効**：IDE インターフェースを無効にします。IDE インターフェースに接続されているデバイスは、使えなくなります。
 - ・ **有効**：IDE インターフェースを使います。
 - マスター／スレーブ／PIO モード：データの転送モードを設定します。数値が大きいほど転送速度が上がります。
 - 自動：自動的に、最適なモードが設定されます。
 - 高速 PIO 0～4：設定により、それぞれ最大 3.3/5.2/8.3/11.1/16.7MB/秒の転送速度になります。
 - マスター／スレーブ／UDMA モード：Ultra DMA の転送モードを設定します。
 - ・ **無効**：Multiword DMA モードに設定します。
 - ・ **自動**：最適なモードに設定されます。

POINT

- ▶ セカンダリマスター／スレーブの初期値は、「無効」に設定されます。

- **USB コントローラ**…USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。USB コントローラを「無効」にすると、すべての USB 機器が使えなくなります。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
 - ・ **無効**：USB コントローラを無効にします。
 - ・ **有効**：USB コントローラを有効にします。
- **USB キーボード**：USB キーボードを使えるようにするかどうかを設定します。USB コントローラを「有効」に設定したとき本設定を変更できます。USB キーボードをお使いになるときは「有効」を選択してください。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
 - ・ **無効**：USB キーボードを無効にします。
 - ・ **有効**：USB キーボードを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「無効」のままでもご使用になれます。
 - ▶ 「USB キーボード」を「有効」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。USB キーボードをお使いにならない場合は「無効」に設定してください。
- なお、USB に対応していない OS では、PS/2 キーボードのご使用をお勧めします。

- **USB マウス**：USB マウスを使えるようにするかどうかを設定します。USB コントローラを「有効」に設定したとき本設定を変更できます。USB マウスをお使いになるときは「有効」を選択してください。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
 - ・ **無効**：USB マウスを無効にします。
 - ・ **有効**：USB マウスを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「無効」のままでもご使用になれます。
 - ▶ 「USB マウス」を「有効」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。USB マウスをお使いにならない場合は「無効」に設定してください。
- なお、USB に対応していない OS では、PS/2 マウスのご使用をお勧めします。

- **サウンドコントローラ**…内蔵のサウンドデバイスの有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **有効**：本パソコンが自動的に内蔵のサウンドデバイスを有効にします。
 - ・ **無効**：内蔵のサウンドデバイスを無効にします。
- **LAN コントローラ**…マザーボード上の LAN アダプタを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **無効**：LAN アダプタを無効にします。
 - ・ **有効**：LAN アダプタを有効にします。
- **ハードディスクマルチセクタ転送**…ハードディスクのマルチセクタ転送を有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **無効**：ハードディスクのマルチセクタ転送をしません。
 - ・ **有効**：ハードディスクのマルチセクタ転送をします。
- **フロッピーディスクコントローラ**…フロッピーディスクコントローラを使うかどうかを設定します。
 - ・ **無効**：フロッピーディスクコントローラを無効にします。
 - ・ **有効**：フロッピーディスクコントローラを有効にします。

- シリアルポート…シリアルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・無効：シリアルポートに I/O アドレスを割り当てません。
 - ・3F8/IRQ4、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3：割り当てる I/O アドレスを設定します。
- パラレルポート…パラレルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・無効：パラレルポートに I/O アドレスを割り当てません。
 - ・3BC/IRQ7、378/IRQ7、278/IRQ5：割り当てる I/O アドレスを設定します。
- モード：パラレルポートのデータ転送モードを設定します。
 - ・SSP、EPP1.9+SSP、ECP、EPP1.9+ECP、EPP1.7+SSP、EPP1.7+ECP：接続する周辺機器に合わせて、設定してください。
- DMA チャンネル：ECP 用の DMA チャンネルを設定します。「モード」を「ECP」、「EPP1.9+ECP」、「EPP1.7+ECP」に設定した場合に設定できます。
 - ・1、3

□省電力設定

ハードディスク省電力、スタンバイ移行時間、スタンバイに移行するまでの条件、電源スイッチなどの設定をします。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- 省電力モード
 - ・省電力モード…省電力機能を使うかどうかを設定します。
 - ・ユーザー設定：各項目を個別に設定できるようにします。
 - ・Min Saving：性能を損なわない範囲で、消費電力をおさえます。
 - ・Max Saving：電力消費を最小限におさえます。

POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ・スタンバイ移行時間…「省電力モード」が「ユーザー設定」に設定されている場合に設定できます。スタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。
 - ・無効：スタンバイモードに移行しません。
 - ・1Min ~ 1Hour：設定した時間後にスタンバイモードに移行します。

POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ▶ Windows NT をお使いの場合、本設定を変更しないでください。時計が止まります。
- ・ハードディスク省電力…ハードディスクへのアクセスがなくなってから、ハードディスクのモーターを止めるまでの時間を設定します。
 - ・無効（初期値：Windows XP/2000/Me/98 モデル）：ハードディスクのモーターを止めません。
 - ・1Min ~ 15Min（初期値（15Min）：Windows NT モデル）：設定した時間後に、ハードディスクのモーターを止めます。

POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

● ACPI 設定

- ・ **標準**：スタンバイ方式を S1 に設定します。システムの状態は保持していますが、CPU を停止させます。
- ・ **高度**：スタンバイ方式を S3 に設定します。システムの状態をメモリに保持し、その他の回路を停止させます。

POINT

- ▶ 本設定を変更する場合は、「機能」－「ACPI のスタンバイモードを設定する」をご覧ください。

● 電源スイッチ…本パソコンの動作中に、電源ボタンを押したときの動作を設定します。

- ・ **スタンバイ**：電源ボタンを押すと、スタンバイモードに移行します。
- ・ **電源 OFF**：電源ボタンを押すと、電源が切れます。

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

● AC 通電再開時の動作

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- ・ **自動**：電源が切断されたときの状態に戻ります。
- ・ **電源 On**：電源が入ります。
- ・ **電源 Off**：電源が切れたままになります。

POINT

- ▶ 「電源 On」または「電源 Off」に設定した場合、AC 電源切断後 10 秒以上待ってから電源を入れてください。10 秒以内に入れると正常に動作しなくなります。
- ▶ 「自動」に設定していて、電源が切れたときの状態がサスペンド、または休止状態の場合、通電再開時に電源が入ります。

- ・ **USB によるウェイクアップ**…USB 機器によって、スタンバイ状態から復帰させるかどうかを設定します。

- ・ **有効**：USB 機器によって、スタンバイ状態から復帰させます。
- ・ **無効**：USB 機器によって、スタンバイ状態から復帰させません。

POINT

- ▶ サービスコンセントを電源としている USB 機器(ディスプレイ内蔵型 HUB など)が接続されていると、正常にスタンバイ状態へ移行できないことがあります。その場合は、本項目を“無効”に設定してください。
- ▶ Windows XP/2000 の場合、本項目を有効に設定してもサスペンド状態から復帰させることはできません。デバイスマネージャで設定してください。

● 自動ウェイクアップ

- ・ LAN によるウェイクアップ…内蔵 LAN が Magic Packet (ウェイクアップ信号) を受信したときに電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - ・ 無効: Magic Packet を受信しても、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - ・ 有効: Magic Packet を受信したときに、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

 POINT

- ▶ Windows XP/2000/Me/98 では、本項目を設定してもスタンバイや休止状態から復帰させることはできません。デバイスマネージャで設定してください。

- ・ モデム着信によるウェイクアップ…モデム (シリアルポートに接続) がリング信号を受信したときに、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - ・ 無効: モデムがリング信号を受信しても、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - ・ 有効: モデムがリング信号を受信したときに、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

 POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- ・ 時刻によるウェイクアップ…指定した時刻になったときに、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - ・ 無効: 指定した時刻に、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - ・ 有効: 指定した時刻に、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

 POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- ・ ウェイクアップ日付…ウェイクアップする日付を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に設定できます。
 - ・ 0 ~ 31

 POINT

- ▶ 本機能を毎日お使いになりたいときは、「0」に設定します。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- ・ ウェイクアップ時刻 (時) …ウェイクアップする時刻 (時) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に設定できます。
 - ・ 0 ~ 23

 POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- ・ **ウェイクアップ時刻 (分)** …ウェイクアップする時刻 (分) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に、設定できます。
 - ・ 0 ~ 59
- ・ **ウェイクアップ時刻 (秒)** …ウェイクアップする時刻 (秒) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に、設定できます。
 - ・ 0 ~ 59

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

□ PnP/PCI 設定

プラグアンドプレイ対応の OS、リソースを設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **プラグアンドプレイ対応 OS**…プラグアンドプレイ対応のデバイスを、BIOS が初期化するか、プラグアンドプレイまたは ACPI に対応した OS が初期化するかを設定します。
 - ・ **いいえ**：BIOS はすべてのデバイスを初期化します。
 - ・ **はい**：BIOS は OS の起動に必要なデバイスを初期化します。その他のデバイスは、プラグアンドプレイまたは ACPI に対応した OS が初期化します。

POINT

- ▶ 通常時は「いいえ」のままお使いください。

- **リソース (ESCD) の初期化**…システムの構成情報が格納されている ESCD (Extended System Configuration Data) の内容を、初期化するかどうかを設定します。
 - ・ **無効**：ESCD の内容を、初期化しません。
 - ・ **有効**：ESCD の内容を、初期化します。再起動後は、自動的に「無効」に戻ります。
- **リソース設定**…IRQ (割り込み要求) を設定します。
 - ・ **自動**：自動的にリソースが割り当てられます。
 - ・ **手動**：手動でリソースを割り当てる場合に選択します。
- **割り込み要求 (IRQ)**…PCI デバイスや Card Bus 対応の PC カード、16 ビット対応の PC カードに IRQ を予約します。「リソース設定」を「手動」に設定した場合に設定できます。
 - ・ **PCI device**：PCI デバイスや Card Bus 対応の PC カードに IRQ を予約します。
 - ・ **PC Card**：16 ビット対応の PC カードに IRQ を予約します。
 - ・ **Reserved**：シリアルポートやパラレルポートに IRQ が予約されています。

POINT

- ▶ PC カードの中には使える IRQ が限定されているものや、IRQ を他のデバイスと共有できないものがあります。
 - ・ **Card Bus 対応 PC カードの場合**
IRQ の予約は必要ありません。
 - ・ **16 ビット対応 PC カードの場合**
お使いになる 16 ビットカードの枚数に応じて IRQ を BIOS セットアップメニューの PnP/PCI 設定の項目で予約してからお使いください。2 枚の 16 ビットカードを同時に使用する場合は、IRQ を 2 つ予約してください。
ただし、お使いになる PC カードのマニュアルに使える IRQ について記載されている場合は、必ず記載されている IRQ を予約してください。
お使いになる PC カードのマニュアルにて、Card Bus 対応 PC カードか 16 ビット対応 PC カードかをご確認ください。

セキュリティメニュー

セキュリティメニューでは、特定の人だけが本パソコンを操作できるようにパスワードを設定します (→ P.69)。

■ 設定項目の詳細

□ セキュリティオプション

システム起動時、または BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求するかどうかを設定します。

- ・ **システム**：システム起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・ **セットアップ**：BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・ **自動**：システム起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワードを入力します。ただし、自動ウェイクアップ項目の機能により起動した場合は、パスワード入力は要求されず、OS の起動まではキーボードが使用できなくなります。

POINT

- ▶ 本設定は、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードが設定されている場合のみ設定が有効です。

□ 管理者用パスワード

【Enter】 キーを押して、管理者用パスワードを設定、または変更します。

□ ユーザー用パスワード

【Enter】 キーを押して、ユーザー用パスワードを設定します。

□ ハードディスクパスワード

【Enter】 キーを押して、ハードディスクパスワードを設定します。

POINT

- ▶ パスワードを設定すると、BIOS セットアップへのアクセス時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、「System Halted!!」と表示され、本パソコンはキーボードからの入力に反応しなくなります (ピーブ音が鳴り続けます)。この場合、本パソコンの電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」を設定して、さらに「管理者用パスワード」が設定されている場合、ユーザー権限で設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます (ユーザー用パスワードのみ変更できます)。
- ▶ 管理者用パスワードと同じパスワードが設定されている場合は、ハードディスクパスワード入力は要求されません。また、ハードディスクパスワードと管理者用パスワード異なる場合は、先に管理者用パスワード入力が要求されます。
- ▶ ハードディスクパスワードを設定し、セキュリティ機能が有効になっているハードディスクは、本装置以外の装置ではご使用になれません。

□ フロッピーディスクエラー検出

フロッピーディスクドライブエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ **有効**：フロッピーディスクドライブエラーを検出します。
- ・ **無効**：フロッピーディスクドライブエラーを検出しません。

□ CPU ファンエラー検出

自己診断（POST）時に、CPU ファンエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ **有効**：CPU ファンエラーを検出します。
- ・ **無効**：CPU ファンエラーを検出しません。

□ エラーを無視するデバイス

自己診断でエラーを検出したとき、エラーを無視するデバイスを設定します。

- ・ **なし**：すべてのエラーを有効にします。
- ・ **全て無視**：すべてのエラーを無視します。
- ・ **Keyboard**：キーボードに関するエラーを無視します。
- ・ **FDD**：フロッピーディスクドライブに関するエラーを無視します。
- ・ **Keyboard/FDD**：キーボードとフロッピーディスクドライブに関するエラーを無視します。

□ イベントログ設定

- **イベントログ…** イベントログ発生時にイベントログを記録するかどうか設定します。
 - ・ **有効**：イベントログを記録します。
 - ・ **無効**：イベントログを記録しません。
- **イベントログの消去…** 再起動時にイベントログの内容を消去するか設定します。
 - ・ **有効**：イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定値に「無効」になります。
 - ・ **無効**：イベントログを消去しません。
- **イベントログの表示…** 【Enter】 キーを押すと、イベントログの詳細を表示します。

終了メニュー

終了メニューは、セットアップを終了するときに使います。

■ 設定項目の詳細

□ 変更を保存して終了する（再起動）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンを再起動します。

□ 変更を保存して終了する（電源 OFF）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源が自動的に切れます。

□ 変更を保存せずに終了する（再起動）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存しないで終了しますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を元に戻して BIOS セットアップを終了し、本パソコンを再起動します。

□ 標準設定値を読み込む

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「標準設定値を読み込みますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、標準設定値が読み込まれます。

4 BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンのデータを守るためのパスワード機能を説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使えなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

入力するパスワードにより、本パソコン操作の権限が区別されます。

- **管理者用パスワード**

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動できないようにします。

- **ユーザー用パスワード**

特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動できないようにします。

なお、「管理者用パスワード」が同時に設定されている場合、BIOS セットアップでは、ユーザー用パスワードのみ変更できます。

- **ハードディスクパスワード**

特定の人だけが、ハードディスクを使えるようにするためのパスワードです。

ハードディスクパスワードを設定すると、起動時にパスワード入力を要求されます。パスワードを入力すると、ハードディスクのセキュリティが無効になり、ハードディスクが使用可能になります。

なお、管理者用パスワードが設定されている場合のみ、設定 / 変更 / 削除ができます。

パスワードを忘れると

管理者用パスワードを忘れると、起動や BIOS セットアップができなくなってしまいます。また、ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクドライブをお使いになれなくなってしまいます。これらの場合は、修理（有償）が必要となりますので、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。無償修理期間中でも有償となります。なお、ハードディスク内のデータは復旧できません。

パスワードを設定する

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1 「ユーザー用パスワード」、または「管理者用パスワード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

次のパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

パスワードを入力してください：

- 2 8桁までのパスワードを入力します。

パスワードを変更する場合も、新しいパスワードを入力してください。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、代わりに*が表示されます。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

次のパスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が必要になります。

パスワードを確認してください：

- 4 手順2で入力したパスワードを再入力し、【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードを入力してください」の項目に戻ります。もう一度、手順2から入力してください。

- 5 セットアップを終了します。

POINT

- ▶ パスワードを設定した場合は、そのパスワードを書きとめて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

□ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード設定後のパソコンの起動

「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を設定すると、OS起動時とBIOSセットアップ起動時に、パスワードの入力ウィンドウが表示されます。

パスワードを入力してください：

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。なお、ユーザー用パスワードを入力した場合は、設定を制限されるものがあります。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴りシステムが停止します。その場合は、電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってからもう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ テンキーからの入力はできません。

■ ハードディスクパスワードを設定する

パスワードを設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

- 1 「ハードディスクパスワード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
次のパスワード入力用のウインドウが表示されます。

パスワードを入力してください:

- 2 8桁までのパスワードを入力します。入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに*が表示されます。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

次のパスワード確認用のウインドウが表示され、パスワードの再入力が必要になります。

パスワードを確認してください:

- 4 手順2で入力したパスワードを再入力し、【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードを入力してください」の項目に戻ります。もう一度、手順2から入力してください。

- 5 セットアップを終了します。

POINT

- ▶ パスワードを設定した場合は、そのパスワードを書きとめて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

□ ハードディスクパスワード設定後のパソコンの起動

「ハードディスクパスワード」を設定すると、起動時にパスワードの入力ウインドウが表示されます。

ハードディスクパスワードを入力してください:

ハードディスクパスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

なお、管理者用パスワードと同じパスワードが設定されている場合は、ハードディスクパスワード入力は要求されません。また、ハードディスクパスワードと管理者用パスワード異なる場合は、先に管理者用パスワード入力が要求されます。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、ピープ音が鳴りシステムが停止します。その場合は、電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってからもう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。
テンキーからの入力はできません。
- ▶ ハードディスクパスワードを何も入力せずに【Enter】キーを押すと、ハードディスクのセキュリティを有効のまま、他のデバイスにより本パソコンを起動させることができます。

パスワードを変更／削除する

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを変更／削除する

□ パスワードを変更する

パスワードを変更するには、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」の項目で、新しいパスワードを入力、確認します。

□ パスワードを削除する

パスワードを削除するには、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」の項目で、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。

次のウィンドウが表示され、パスワードが削除されます。

パスワードを消しました。
どれかキーを押してください。

■ ハードディスクパスワードを変更／削除する

□ ハードディスクパスワードを変更する

パスワードを変更するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

- 1 「ハードディスクパスワード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
次のパスワード入力用のウインドウが表示されます。

現在のパスワードを入力してください：

- 2 現在設定しているパスワードを入力します。
パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

- 3 次に新しいパスワードを入力します。
次のパスワード入力用のウインドウが表示されます。

パスワードを入力してください：

- 4 8桁までのパスワードを入力します。入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに*が表示されます。

- 5 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

次のパスワード確認用のウインドウが表示され、パスワードの再入力が必要です。

パスワードを確認してください：

- 手順2で入力したパスワードを再入力し、【Enter】キーを押します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードを入力してください」の項目に戻ります。もう一度、手順2から入力してください。

- セットアップを終了します。

□ハードディスクパスワードを削除する

パスワードを削除するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

- 「ハードディスクパスワード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
次のパスワード入力用のウインドウが表示されます。

現在のパスワードを入力してください:

- 現在設定しているパスワードを入力します。
パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

- 次のパスワード入力用のウインドウが表示されます。
新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。

パスワードを入力してください:

- 次のウインドウが表示され、パスワードが削除されます。

パスワードを消去しました。
どれかキーを押してください。

- セットアップを終了します。

5 BIOSが表示するメッセージ一覧

本パソコンが表示するエラーメッセージの対処方法を説明します。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」(→ P.74)に記載の処置や次の処置を行ってください。

- BIOS セットアップを実行する
BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを再実行してください。
- 周辺機器の取り付けを確認する
拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかどうか確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

- BIOS ROM checksum error - System halted.
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- CMOS CHECKSUM ERROR
【F2】キーを押して、BIOSセットアップを起動し、BIOS設定を標準設定値に戻してください。それでも改善されない場合、バッテリーの交換が必要です。
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、【Enter】キーを押してください。
- DISKETTE DRIVES OR TYPES MISMATCH ERROR - RUN SETUP
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、BIOSセットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
- DISPLAY SWITCH IS SET INCORRECTLY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- DISPLAY TYPE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- EISA Configuration Checksum Error
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- EISA Configuration Is Not Complete
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- ERROR ENCOUNTEED INITIALIZING HARD DRIVE
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
- ERROR INITIALIZING HARD DISK CONTROLLER
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、IDE ドライブの設定が正しく行われているかを確認してください。
- FLOPPY DISK CNTRLR ERROR OR NO CNTRLR PRESENT
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- FLOPPY DISK(S) fail (80)
FLOPPY DISK(S) fail (40)
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
- Hard Disk(s) fail (80)
Hard Disk(s) fail (40)
Hard Disk(s) fail (20)
Hard Disk(s) fail (10)
Hard Disk (s) fail (08)
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
- Invalid EISA Configuration
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- KEYBOARD ERROR OR NO KEYBOARD PRESENT
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
- Keyboard is locked out - Unlock the key.
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
- Manufacturing POST loop.
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- Memory Address Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory parity Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- MEMORY SIZE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory test fail.
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory Verify Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

- **OFFENDING ADDRESS NOT FOUND**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **OFFENDING SEGMENT:**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **PRESS A KEY TO REBOOT**
キーボードのキーのどれかを押してください。本パソコンが再起動します。
- **PRESS F1 TO DISABLE NMI,F2 TO REBOOT**
【F1】キーを押して先に進めるか、または【F2】キーを押して、本パソコンを再起動してください。
- **RAM PARITY ERROR - CHECKING FOR SEGMENT...**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- **Should Be Empty But EISA Board Found**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Should Have EISA Board But Not Found**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Slot Not Empty**
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SYSTEM HALTED, (CTRL-ALT-DEL) TO REBOOT...**
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して、本パソコンを再起動してください。
- **Wrong Board In Slot**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。
- **PXE-E51:No DHCP or BOOTP offers received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。起動時に必要な IP アドレスが取得できませんでした。DHCP サーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。
- **PXE-E53:No boot filename received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。
- **PXE-E78:Could not locate boot server**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。
- **PXE-T01:File not foundPXE-E89:Could not download boot image**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。

- PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。

- Warning :This system requires 133MHz memory.

メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

- Warning: Current DRAM clock might be unstable !

メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

Memo

第 5 章

技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	80
2 コネクタ仕様	82

1 仕様一覧

本体仕様

		FMV-6000CX	
CPU		Pentium® III Processor-1.0BGHz	Celelon™Processor-900MHz
2次キャッシュ		256KB (CPU 内蔵)	128KB (CPU 内蔵)
BIOS ROM		512KB (FLASH ROM)	
メインメモリ		標準 64MB/128MB (168 ピン SDRAM DIMM) 最大 512MB (ECC 非対応) ※ ¹	
フロッピーディスク		3.5 インチ×1 (3 モード対応)	
ハードディスク		標準 20.4GB ※ ²	
CD-ROM		最大 24 倍速	
グラフィック		最大 1024 × 768 ドット/最大 1619 万色	
VRAM		8 ~ 14MB (メインメモリと共用)	
ネットワーク		100BASE-TX/10BASE-T、Wake up on LAN 対応	
I/F	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 2 スロット または Type III × 1 スロット (CardBus 対応)	
	USB	4 ポート (4 ピン) SeriesA	
	キーボード	PS/2 タイプ Mini DIN 6pin	
	マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6pin	
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin	
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin	
	LAN	モジュラージャック RJ45	
Audio		スピーカー内蔵 側面：Mic-in、Headphone-out 背面：Line-out、Line-in	
障害監視機能		CPU ファン停止	
電源/周波数		AC100V 50/60Hz	
消費電力	電源「オフ」状態	5.7W 以下※ ³	
	動作時	最大約 92W 最小約 52W ※ ⁴	
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 [W/MTOPS]		区分：R	
		Windows XP モデル：0.0025	Windows XP モデル：0.0028
		Windows 2000 モデル：0.0026	Windows 2000 モデル：0.0028
		Windows NT モデル：0.0240	Windows NT モデル：0.0260
		Windows Me モデル：0.0026	Windows Me モデル：0.0028
Windows 98 モデル：0.0026	Windows 98 モデル：0.0028		
質量		約 11.5kg	
外形寸法 (縦置き時)		390mm × 238mm × 426mm (W × D × H) (突起部は除く、モニタ垂直時)	
使用環境		温度 10 ~ 35℃ 湿度 20 ~ 80% (RH)	
保存環境		温度 -10 ~ 60℃ 湿度 20 ~ 90% (RH)	

※¹：Windows Me/98 モデルのみ標準 64MB、それ以外のモデルは標準 128MB。

※²：本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。Windows 上で 1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で表示される容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

※³：電源「オフ」状態のエネルギー消費は、製品の電源プラグをコンセント (AC100V) から抜くことにより回避できます。

※⁴：ご使用になる機器構成により値は変動します。

POINT

- ▶ 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

LAN アダプタ仕様

LAN コントローラ	Intel 82801BA(ICH2) 内蔵 + 82562EM
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 3Kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル※ ¹ (100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット※ ² による

※¹ : ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

※² : ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本パソコン標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードを変更する場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

サウンド仕様

サウンドコントローラ	Intel 製 82801BA I/O Controller Hub 内蔵 + ANALOG DEVICES 社製 AD1885
PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz 16 bit Stereo 同時録音再生機能

※ : DirectX8.0a 以降に対応しています。

グラフィック仕様

ビデオコントローラ	Intel 製 82815 Graphics Memory Controller Hub 内蔵
表示モード	最大 1024 × 768
ビデオメモリ	8 ~ 14MB (メインメモリと共用、DVMT※ ¹)

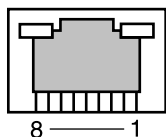
※ : DirectX8.0a 以降に対応しています。

※¹ : DVMT : Intel® Dynamic Video Memory Technology

2 コネクタ仕様

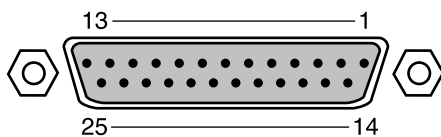
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	-	未接続
8	NC	-	未接続

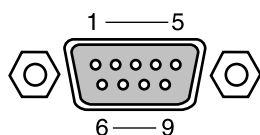
■ パラレルコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	* STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	* ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト

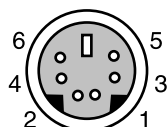
ピン番号	信号名	方向	説明
14	* AUTOFD	出力	自動送り
15	* ERROR	入力	エラー
16	* INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グラウンド

■ シリアルコネクタ



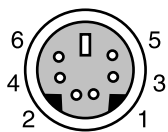
ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



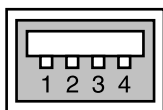
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

索引

記号

100BASE-TX/10BASE-T	82
109 日本語キーボード	22

A

ACPI 設定	63
AC 通電再開時の動作	63

B

BIOS	
- 設定	59
- セットアップの各キーの役割	54

C

CD	
- のお手入れ	38
- をセットする	25
- を取り出す	26
CMOS RAM	52

D

DC-IN コネクタ	16
DMA チャネル	62

I

IDE セカンダリ	56
- コントローラ	60
IDE プライマリ	56
- コントローラ	60

L

LAN	
- コネクタ	82
- コントローラ	61
- によるウェイクアップ	64

P

PC カード	30
- スロット	16, 32
- 取り出しボタン	16, 33, 34, 35
- のセット	31
- を取り出す	32
PnP/PCI 設定	65

U

USB	
- キーボード	61
- コネクタ	84
- コントローラ	61
- マウス	61

あ行

アクセスモード	57
イベントログ	67
- 設定	67
- の消去	67
- の表示	67
ウイルス検出時の警告	59
ウェイクアップ	
- 時刻 (時)	64
- 時刻 (分)	65
- 日付	64

か行

各キーの役割	54
拡張メモリ容量	58
仮書き込みシリンダ	57
管理者用パスワード	66, 70
キーボード	22
- コネクタ	84
- のお手入れ	38
起動時の NumLock 設定	60
起動デバイスの優先順位	60
クリック	20
高速起動	59

さ行

最大容量	57
サウンドコントローラ	61
時刻によるウェイクアップ	64
システム	
-時刻	56
-日付	56
-メモリ容量	58
省電力	
-設定	62
-モード	62
シリアルコネクタ	83
シリアルポート	62
シリンダ数	57
スクロール	21
スタンバイ	62
-移行時間	62
スタンバイランプ	14
スピーカー	15
セクタ数	57
全メモリ容量	58

た行

ダブルクリック	21
通風孔	37
電源スイッチ	63
盗難防止用ロック	17
ドラッグ	21

な行

内蔵デバイス設定	60
----------	----

は行

ハードディスク	
-省電力	62
-の S.M.A.R.T.	60
-の自動検出	56
-パスワード	66
-パスワードを削除する	73
-パスワードを設定する	71
-パスワードを変更する	72
パスワード	52
-を削除する	72
-を変更する	72
パソコン本体のお手入れ	37

パラレル

-コネクタ	82
-ポート	62
ブライツネスボリューム	15
プラグアンドプレイ対応 OS	65
プロセッサシリアルナンバー	59
フロッピーディスク	27, 57
-コントローラ	61
-ドライブのクリーニング	38
-をセットする	27
-を取り出す	28
ヘッド数	57
ヘッドの退避シリンダ	57
ヘッドホン端子	16
変更を保存	
-して終了する (再起動)	68
-して終了 (電源 OFF)	68
-せずに終了 (再起動)	68
ポイント	21

ま行

マウス	20
-コネクタ	83
-のお手入れ	37
-の使い方	20
名称と働き	14
メッセージ	52
メモリ	44
モデム着信によるウェイクアップ	64

や行

ユーザー用パスワード	66, 70
------------	--------

ら行

リソース	
-設定	65
-(ESCD) の初期化	65

わ行

割り込み要求 (IRQ)	65
--------------	----

FMV-6000CX

ハードウェアガイド
B5FH-4081-01-00

発行日 2001年11月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。